

平成 26 年度全国学力・学習状況調査の結果について

教学指導課

小学校においては、国語 A が若干全国平均を下回ったものの、それ以外は全国平均を上回り、概ね良好な結果となりました。

中学校においては、国語 A が全国平均を上回りました。また、数学 A についても全国平均と同程度となり、昨年度と比べて改善がみられました。一方、国語 B、数学 B は依然として全国平均を下回っており、活用する力については引き続き大きな課題であると考えております。

今後、学識経験者、市町村教育委員会、PTA、学校関係者で構成する分析委員会において、調査結果を詳細に分析し、特に中学校における活用する力を伸ばしてまいります。

1 実施状況

学 校	実施学校数	児童（小 6）・生徒（中 3）数
公立小学校	368 校	19,118 人
公立中学校	188 校（内特別支援学校 5 校）	18,151 人

※ 学校行事等で実施日に実施できなかった小学校 1 校、中学校 4 校を除く。

※ 児童・生徒数については、国語 A の実施人数を記載。

2 長野県と全国の平均正答率（％）の比較（公立）

上段：平均正答率 下段：（平均正答数／設定問題数）

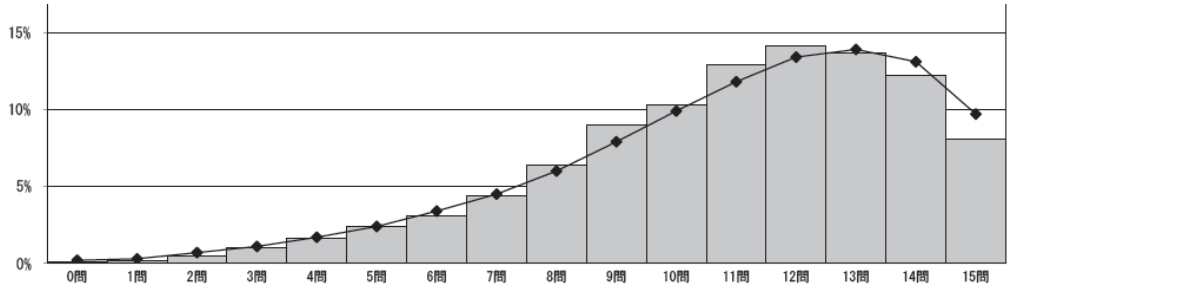
学校	年度 教科	平成 26 年度			平成 25 年度		
		全国	長野県	差	全国	長野県	差
小学校	国語 A	72.9 (10.9/15)	72.6 (10.9/15)	-0.3	62.7 (11.3/18)	63.7 (11.5/18)	+1.0
	国語 B	55.5 (5.5/10)	57.0 (5.7/10)	+1.5	49.4 (4.9/10)	50.3 (5.0/10)	+0.9
	算数 A	78.1 (13.3/17)	79.1 (13.5/17)	+1.0	77.2 (14.7/19)	77.8 (14.8/19)	+0.6
	算数 B	58.2 (7.6/13)	59.0 (7.7/13)	+0.8	58.4 (7.6/13)	59.5 (7.7/13)	+1.1
中学校	国語 A	79.4 (25.4/32)	79.7 (25.5/32)	+0.3	76.4 (24.4/32)	76.8 (24.6/32)	+0.4
	国語 B	51.0 (4.6/9)	49.4 (4.4/9)	-1.6	67.4 (6.1/9)	65.9 (5.9/9)	-1.5
	数学 A	67.4 (24.3/36)	67.2 (24.2/36)	-0.2	63.7 (22.9/36)	61.9 (22.3/36)	-1.8
	数学 B	59.8 (9.0/15)	58.1 (8.7/15)	-1.7	41.5 (6.6/16)	40.2 (6.4/16)	-1.3

3 長野県と全国（公立）との正答数分布グラフの比較

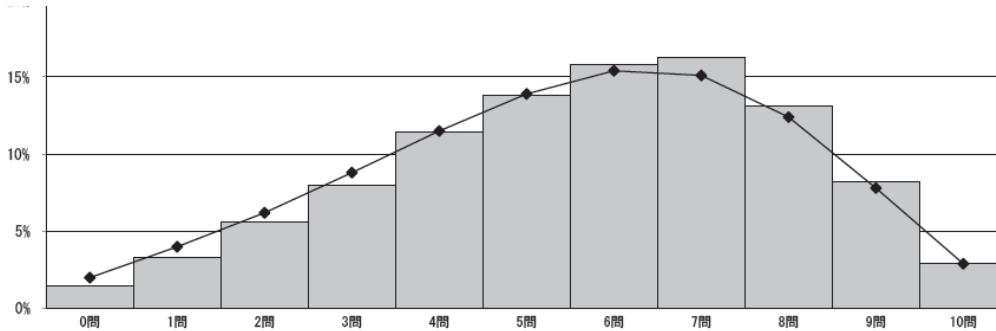
[正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：割合）]

[小学校]

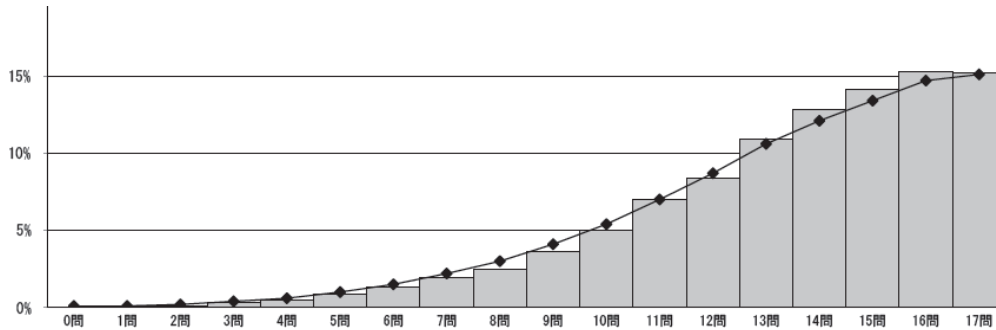
【国語A】



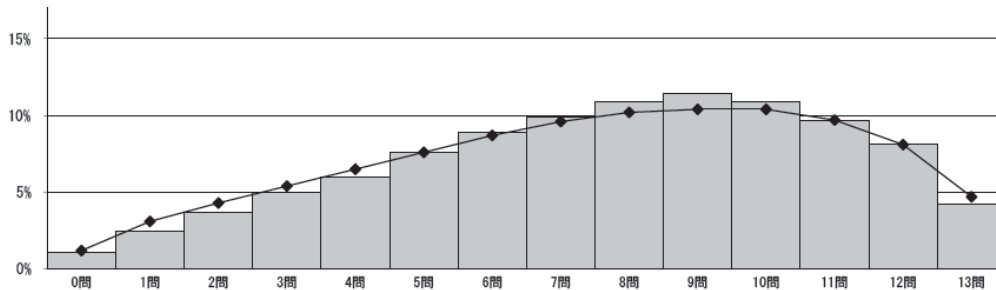
【国語B】



【算数A】



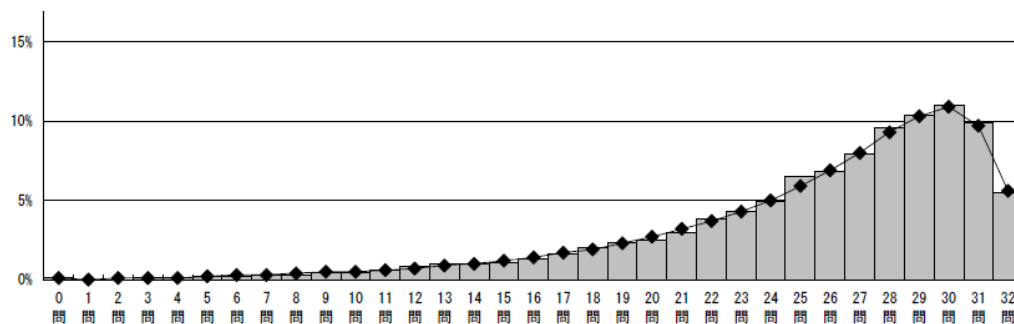
【算数B】



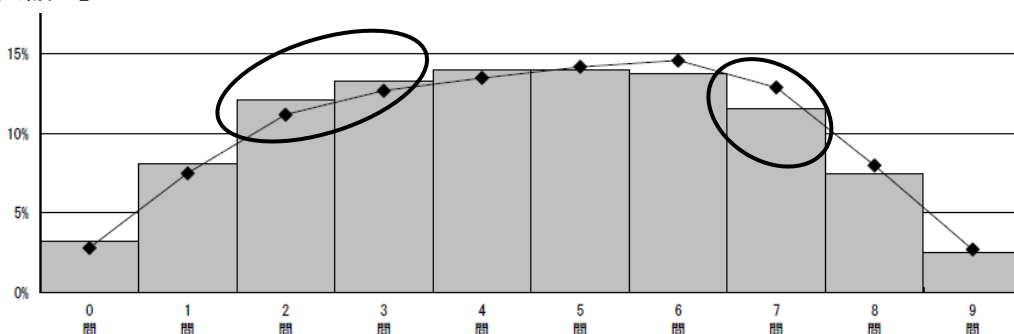
小学校の正答数の分布は、国語、算数ともに全国とほぼ同様の傾向ですが、国語Aで正答数の多い児童の割合がやや少なく、国語B、算数Bでは、正答数の少ない児童の割合が低くなっています。

〔中学校〕

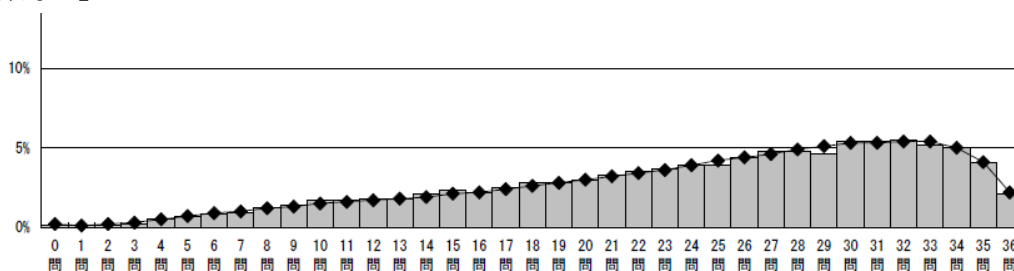
【国語A】



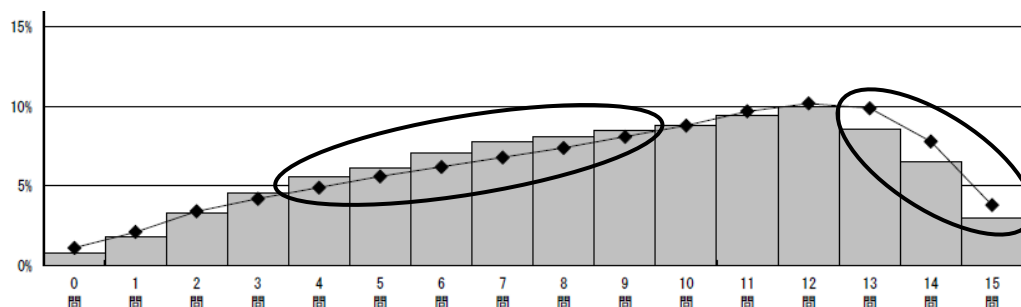
【国語B】



【数学A】



【数学B】



中学校の正答数の分布は、国語、数学ともに、A問題は全国とほぼ同様の傾向となっています。B問題については、国語Bで7、8問正答した生徒、数学Bでは13問以上正答した生徒の割合が全国より低く、国語Bで2、3問正答した生徒、数学Bでは4問から9問正答した生徒の割合が高くなっています。

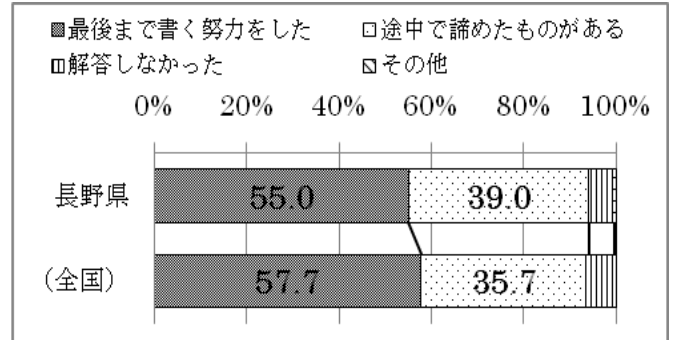
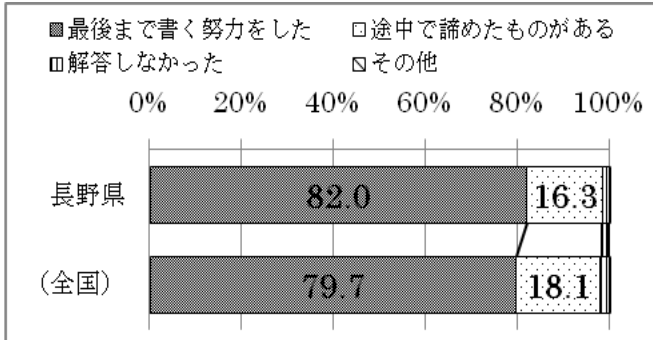
4 質問紙調査の回答から見た本県児童・生徒の現状

(1) 算数・数学の問題について、言葉や数、式などを使って説明する問題の解答状況

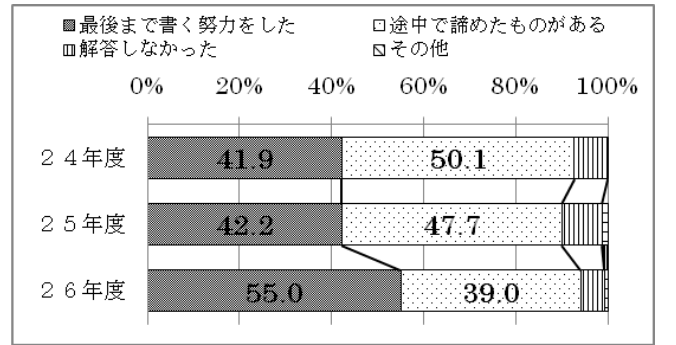
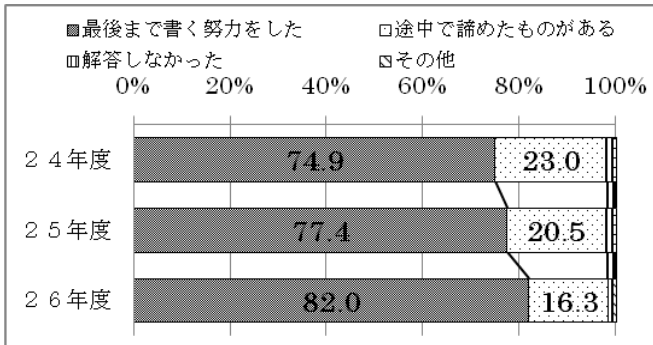
(小学校)

(中学校)

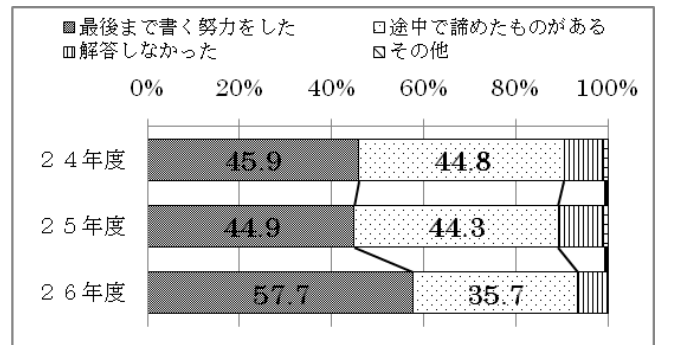
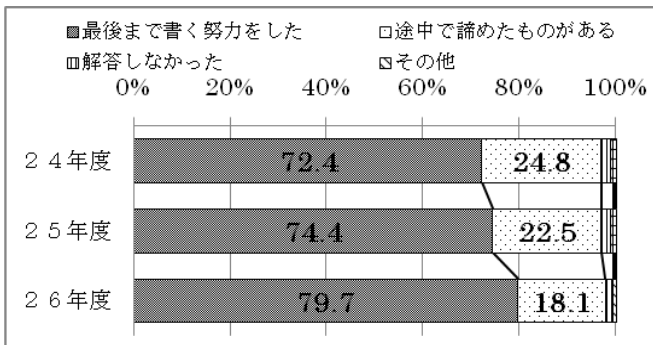
《平成 26 年度の状況》



《経年変化 長野県》



《経年変化 全国》



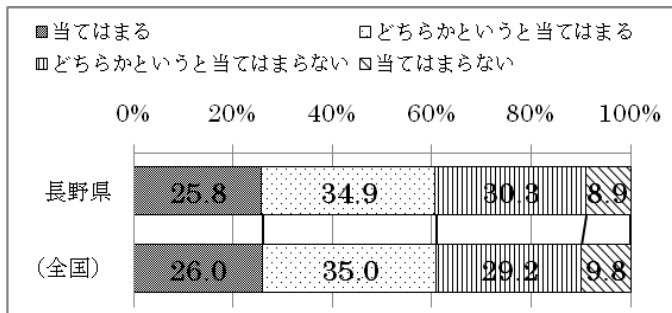
言葉や数、式などを使って説明する問題について、最後まで書く努力をした小学生の割合は、全国よりも高く、経年でも割合が増えています。

中学生は、全国の割合を下回っていますが、最後まで書く努力をした生徒の割合は増加しており、全国との差も、24年度－4ポイント、25年度－2.7ポイント、26年度－2.7ポイントと、縮まる傾向にあります。中学校においても最後まで書く努力は意識するようになっていきます。

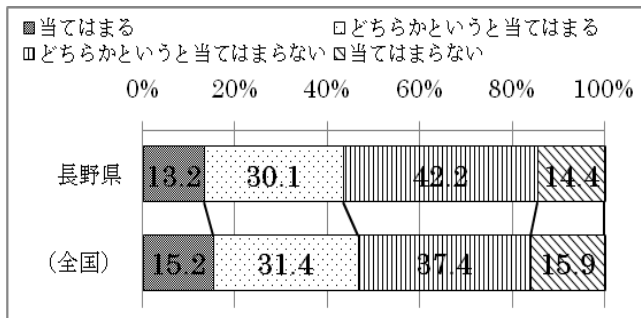
(2) 家で自分で計画を立てて勉強をする状況

(小学校)

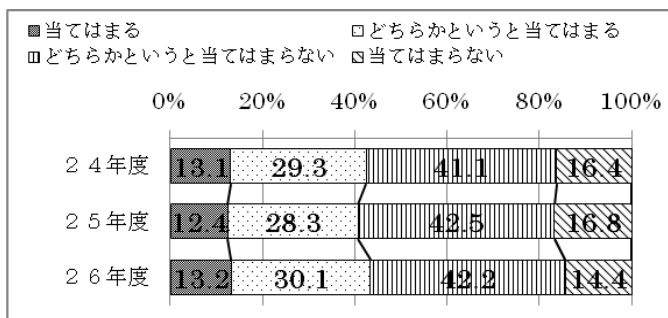
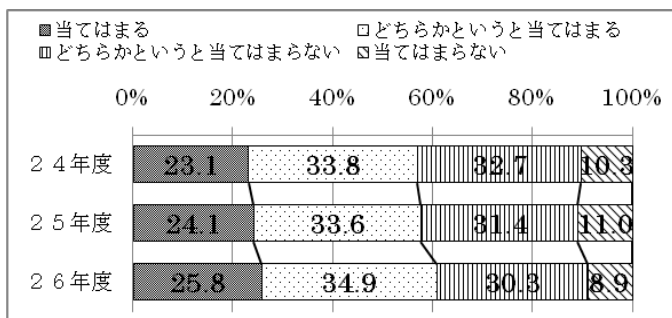
《平成 26 年度の状況》



(中学校)



《経年変化 長野県》



《学校経営概要にみる家庭学習充実に向けた取組の経年変化》

	「家庭学習の手引」がある学校 (%)		児童生徒への統一した指導の実施 (%)	
	25年度	26年度	25年度	26年度
小学校	79.8	89.2	90.0	94.6
中学校	87.7	91.0	98.4	98.9

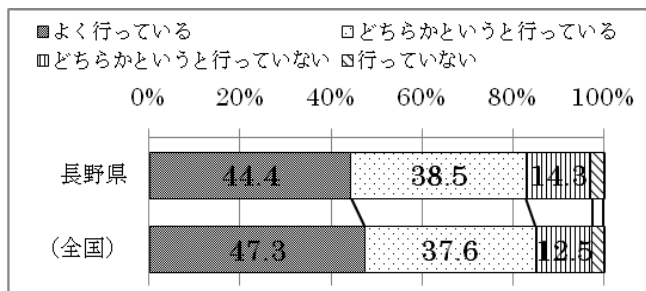
家で自分で計画を立てて勉強すると回答した児童・生徒の割合は、全国をやや下回っていますが、経年変化を見ると、25年度に比べてやや増加しています。

また、本年度の学校経営概要をみると、「庭学習の手引」ある学校、児童生徒への統一した指導を行っている学校の割合は増えており、改善に向けた取組が進み始めています。

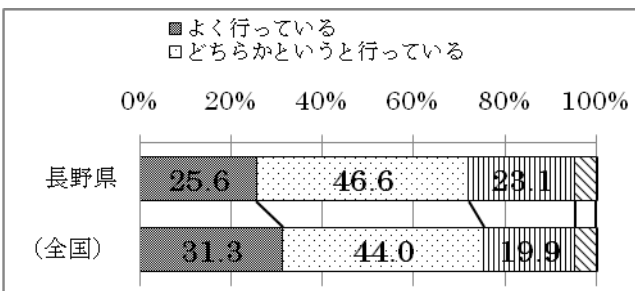
(3) 授業で話し合う活動を行っている状況

(小学校)

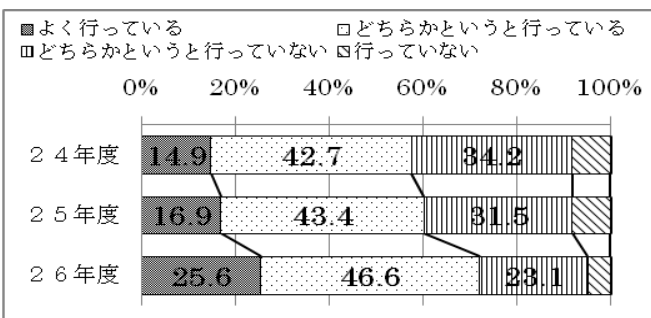
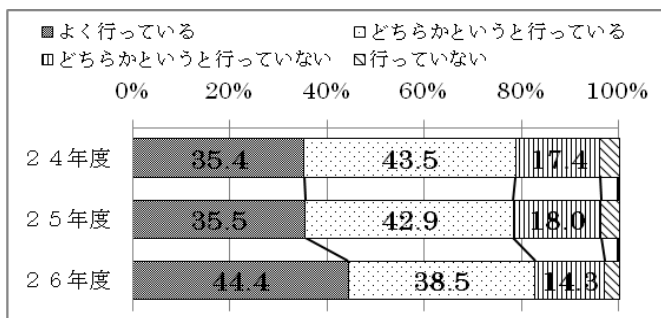
《平成 26 年度の状況》



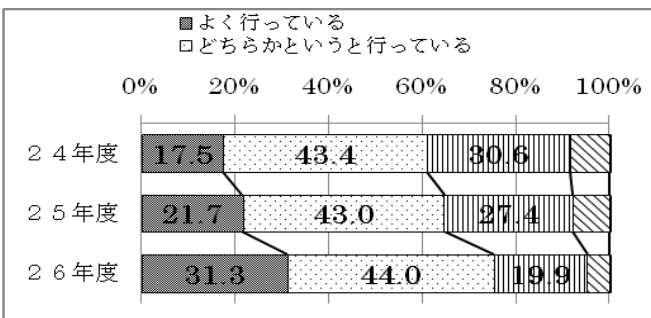
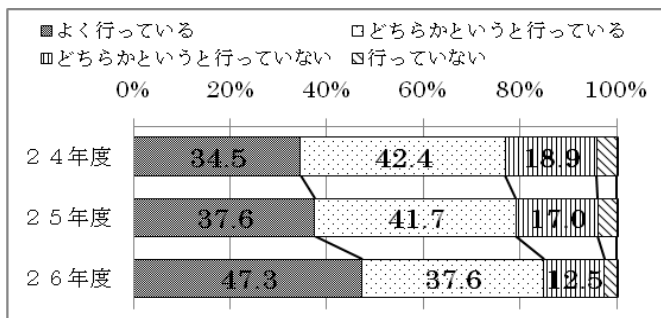
(中学校)



《経年変化 長野県》



《経年変化 全国》



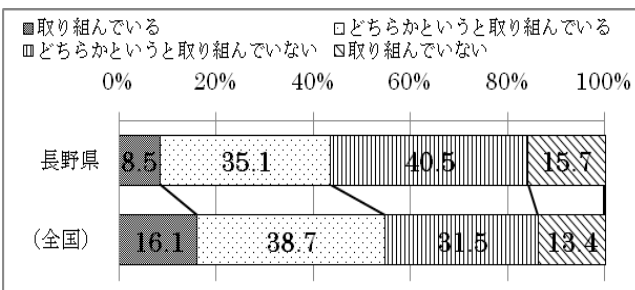
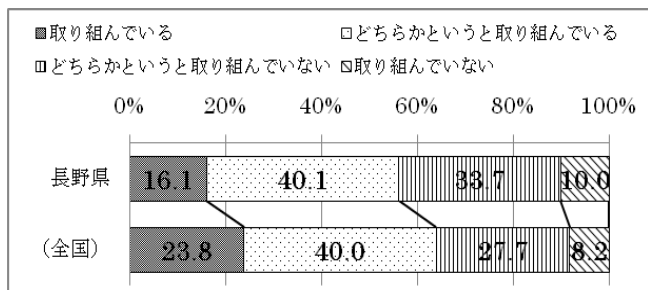
授業で話し合う活動を行っている状況は、小学校、中学校ともに全国を下回っていますが、「よく行っている」と回答している児童・生徒の割合は、小学校、中学校ともに平成25年度から26年度でおよそ9ポイント増加しており、全国の10ポイントの増加と同程度です。小学校、中学校ともに授業における話し合う活動について、改善にむけて取り組んでいることが伺えます。

(4) 総合的な学習の時間において探究的な学習活動に取り組んでいる状況

(小学校)

(中学校)

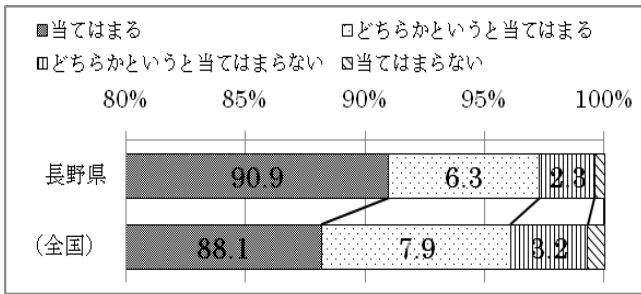
《平成26年度の状況》



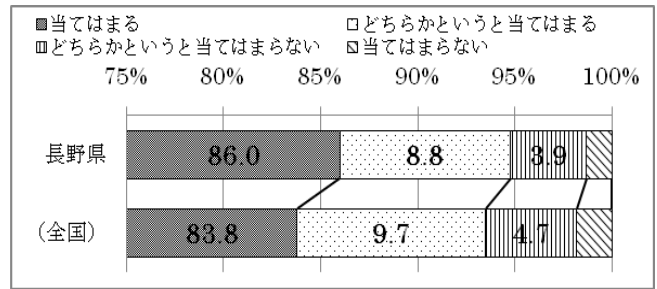
総合的な学習の時間に、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの探究的な学習活動に取り組んでいる割合は、小学校、中学校ともに、全国よりも低い割合です。これは、平成25年度よりやや増加しているものの、総合的な学習の時間における探究的な学習活動は、引き続き課題であるととらえています。

(5) 毎日朝食を食べているかどうかの状況

(小学校)



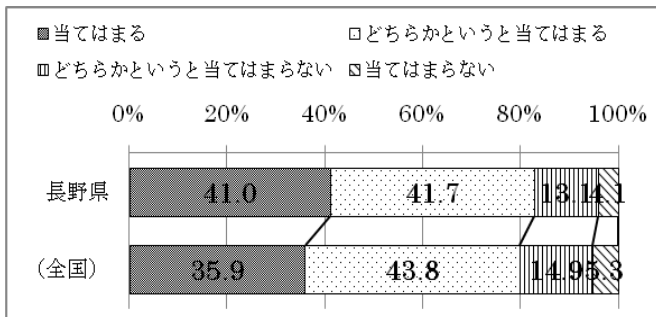
(中学校)



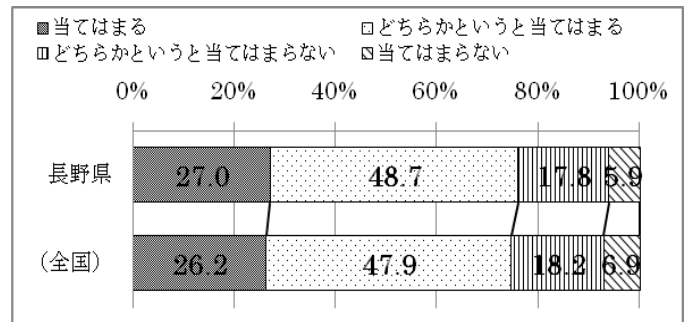
毎日朝食を食べている児童・生徒の割合は、小学校、中学校ともに高くなっています。これは、平成25年度と同様です。

(6) 先生によいところを認められていると思っているかどうかの状況 (新規調査項目)

(小学校)



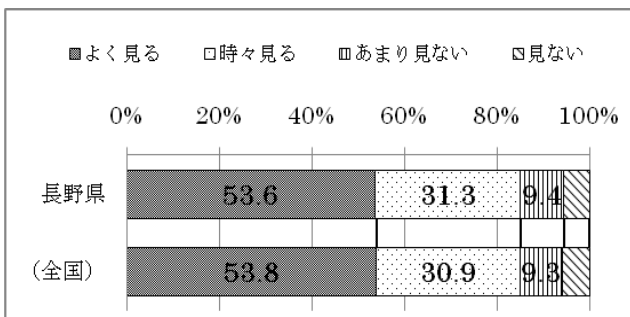
(中学校)



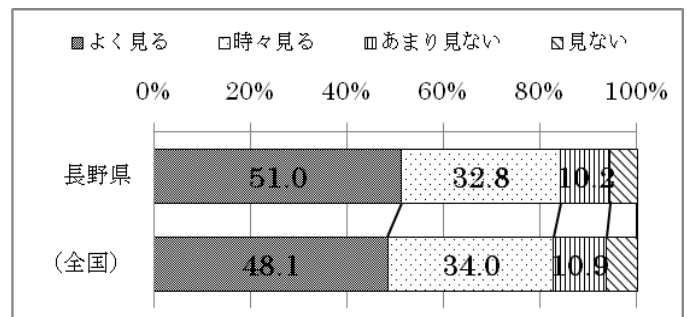
本年度新規に調査を行った項目です。先生によいところを認められていると思っている児童の割合は、全国と比べて高くなっています。中学校においても、全校平均をやや上回っています。本県の先生方が、児童・生徒の様子をとらえ、適切にほめたり認めたりしていることが伺えます。

(7) ニュースを見る状況

(小学校)



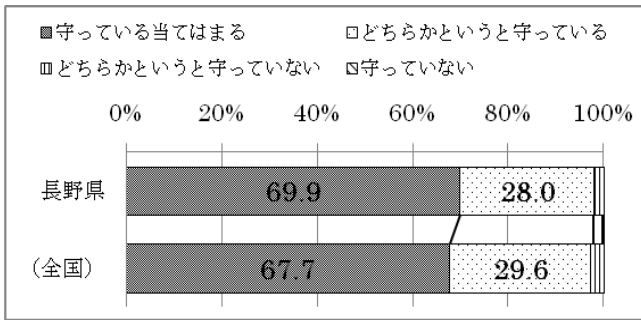
(中学校)



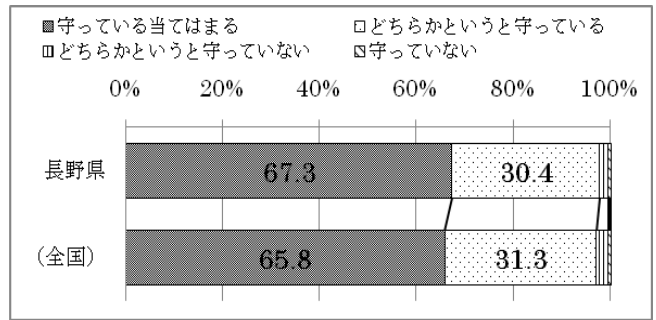
ニュースを見る児童・生徒の割合は、小学校では全国と同程度ですが、中学校では全国をやや上回っています。新聞を読む割合も同様の傾向を示しています。

(8) 友達との約束を守っているかどうかの状況

(小学校)



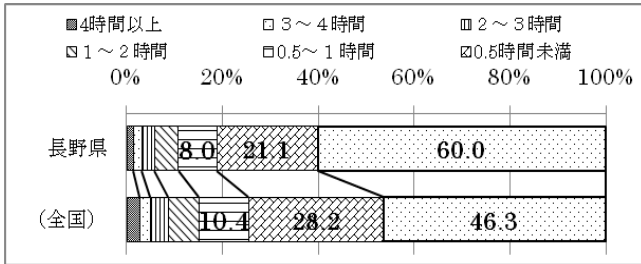
(中学校)



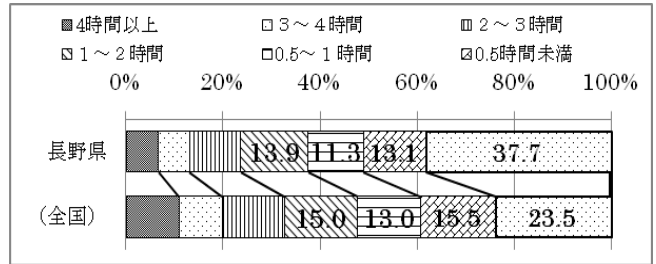
友達との約束を守っている児童・生徒の割合は、小学校、中学校とも全国を上回っています。この割合は、平成25年度よりも増加しています。

(9) 携帯電話やスマートフォンで、通話やインターネットをする時間の状況

(小学校)



(中学校)

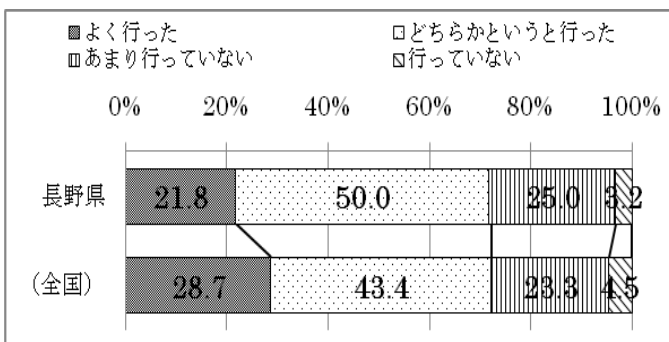


	4時間以上	3~4時間	2~3時間	1~2時間	0.5~1時間	0.5時間未満	持っていない
長野県	1.5	1.7	2.7	4.9	8.0	21.1	60.0
全国	2.7	2.3	3.7	6.4	10.4	28.2	46.3

	4時間以上	3~4時間	2~3時間	1~2時間	0.5~1時間	0.5時間未満	持っていない
長野県	6.7	6.4	10.5	13.9	11.3	13.1	37.7
全国	11.0	8.8	12.9	15.0	13.0	15.5	23.5

携帯電話やスマートフォンで通話やインターネットを3時間以上行う児童・生徒の割合は、全国よりも低くなっています。また、携帯電話やスマートフォンを持っていない児童・生徒の割合は、全国よりも高くなっています。

(10) 教科の指導内容等について小学校と連携している中学校の状況 (学校質問紙)



教科の指導内容等について、中学校が小学校と連携している割合は、全国を下回っています。今後、さらに学校種間で連携を進めていく必要があると考えます。

教科調査の結果と質問紙調査の回答状況から、継続した課題は見られるものの、改善に向けた取組が進み始めている様子が伺えます。今後、調査結果を細に分析し、要因について明らかにし、改善に向けて取り組んでまいります。日常の授業等ですぐに改善が行えることについては、直ちに取り組みを進めてまいります。

5 今後の取組

(1) 改善に向けて直ちに取り組むこと

① 国語、算数・数学の授業における指導について

○教育課程研究協議会における指導

正答率の低い問題について、現在各地区で行われている教育課程研究協議会において、誤答の傾向やその要因、改善の方向について指導主事が指導を行います。

② 各校における分析と今後の取組に向けた支援

○「全国学力・学習状況調査分析研修」の実施

教頭や研究主任等を対象に、9月2日（火）～9月25日（木）の間に教育事務所単位で研修会開催し、各学校が自校の結果を分析し、課題と改善の方向を明確にして学力向上の取組に生かせるよう支援します。

(2) 全国学力・学習状況調査分析委員会による分析

中学校における課題、B問題における課題については、学識経験者、市町村教育委員会、PTA、学校関係者で構成する分析委員会において調査結果を詳細に分析し、課題と改善の方向を検討します。その際、県内教員から募った全国学力・学習状況調査分析サポーター（34名）の意見も含めて検討をします。

分析委員会の日程

第1回 9月12日（金）

第2回 10月17日（金）

第3回 10月28日（火）

《分析委員会名簿》

区分	氏名	所属等
学識経験者	宮崎 樹夫	信州大学学術研究院教育学系 教授
	鈴木 千衣	佐久大学看護学部 教授
	齋藤 嘉克	学校法人 信学会 教育振興部 学習企画課 係長
市町村 教育委員会	小林 雅彦	須坂市教育委員会 教育長
	二木 治樹	安曇野市教育委員会 教育指導室学習指導員
校長	松木 智子	東御市立滋野小学校 校長
	山口 真一	木島平村立木島平中学校 校長
教員	伊澤 順子	長野市立朝陽小学校 教諭
	宮崎 桂子	長野市立篠ノ井西中学校 教諭
PTA	青木 陽子	県PTA連合会編集委員 長野市立城東小学校
	井出 由賀理	県PTA連合会副会長 小海町北相木村南相木村中学校組合立小海中学校